

【君たちは、今週7日(木)6限が美術の中間テストです】**雑学②**  
 2018年の進路通信から

夢の共演  
 絢爛豪華《夜桜》《紅葉》同時展示が実現します。



大観の  
 《夜桜》 1929(昭和4)年 基本彩色 大倉集古館蔵 68.7x118.5  
 横山 大観  
 絢爛豪華 篝火に夜桜が浮かびあがり、夢幻の世界へといざなう。ローマ日本美術展(1930年)に出品された大観自身の作。

## 明治・大正・昭和を駆け抜けた大観の展覧会に是非!

大観展公式サイトから

横山大観(1868-1958)の生誕150年、没後60年を記念し、展覧会を開催します。東京美術学校に学んだ大観は、師の岡倉天心とともに同校を去り、日本美術院を設立。新たな時代における新たな絵画の創出を目指しました。西洋からさまざまなものや情報が押し寄せる時代の中、日本の絵画の伝統的な技法を継承しつつ、時に改変を試み、また主題についても従来の定型をかるがると脱してみせました。やがてこうした手法はさらに広がりを見せ、自在な画風と深い精神性をそなえた数々の大作を生み出しました。

本展では、40メートル超で日本一長い画卷《生々流転》(重要文化財)や《夜桜》《紅葉》をはじめとする代表作に、数々の新出作品や習作などの資料をあわせて展示し、制作の過程から彼の芸術の本質を改めて探ります。

総出品数約90点を展覧する大回顧展です。

7月22日(日)まで京都国立近代美術館

◆社会科の教科書では『無我』(1897年東京国立博物館蔵)や『屈原』(1898年厳島神社蔵)がよく載っています。  
 夏休み補充授業の時に日本美術史を2時間で駆け足学習しますので!!今日は、**朦朧体と琳派(装飾絵画)**を覚えておこう!!

## 横山大観と岡倉天心

横山大観は21歳のときに、**岡倉天心**が校長を務める東京美術学校に入学しました。東京美術学校は、伝統的な日本美術の復活を期して開校した学校です。ここで大観は、後の親友・**菱田春草**らに出会います。

新たな日本画の創造を目指し、従来の日本画にはない**三次元的な空間表現=西洋絵画**のようなリアルな光や空気、遠近感の表現に取り組みます。

しかし、1896年には西洋画のコースができて**黒田清輝**らが教官に迎えられます。同じ頃、校長である天心の運営方針に批判が集まり、騒動に。天心をはじめ横山大観や菱田春草らは学校を去りました。

## リアルな空間表現「朦朧体」の発見

東京美術学校を離れても、横山大観、菱田春草、そして下村観山、木村武山の4人は、研究を続けました。自然界には輪郭線が存在しないことから、日本画の墨線を取り除いたらどうなるかを研究し、大観とともにたどり着いたのが**没線描法**(もっせんびょうほう)です。輪郭線を描かない西洋絵画を意識しながら、日本画らしい空間や陰影の表現を可能にしました。

しかし色や形がぼんやりとした印象になるため、当時の評論家からは「**朦朧体**(もうろうたい)」と酷評されました。

## 20世紀大観が日本らしさを目指した絵画

西洋化に懸命だった19世紀が終わり、新たな世紀が始まると、さまざまな分野で日本の伝統を見直そうとする動きが台頭してきます。

**朦朧体(もうろうたい)**と揶揄されながらもリアルな空間表現を目指していた横山大観や菱田春草は、**朦朧体**を離れ、**琳派**を思わせる装飾的な画風に舵(かじ)を切りました。



「美術工芸運動」 **デザイン**装飾芸術と**絵画**の融合 重要!